

2024年12月3日

株式会社電通デジタル

電通デジタル、ハプティクス（触覚伝達）技術による新しい鑑賞方法で視覚障害者とともにアートを“体感”できるイベント「ENTOUCHABLE MUSEUM -超さわれる美術館-」を開催
－触って、聞いて、アートを全身で体感できる不思議な美術体験を提供－

株式会社電通デジタル（本社：東京都港区 代表取締役社長執行役員：瀧本 恒 以下、電通デジタル）は、NPO 法人八王子視覚障害者福祉協会（所在地：東京都八王子市 理事長：宮川純）と共同で、ハプティクス（触覚伝達）技術^{※1}を活用し、視覚障害者とともに全身でアート作品を体感できるイベント「ENTOUCHABLE MUSEUM（エンタッチャブルミュージアム）-超さわれる美術館-」を、2024年12月20日（金）から12月22日（日）の3日間、東京ミッドタウン日比谷「BASE Q HALL 1」で開催します。

本日より、特設サイトにて先着順での事前予約を開始します。

（特設サイト URL：<https://entouchable-museum-event.peatix.com/view>）



「ENTOUCHABLE MUSEUM -超さわれる美術館-」は、最先端のハプティクス技術を活用し、触ったり聞いたりしてアートを全身で体感できる不思議な美術館です。東京大学大学院新領域創成科学研究科篠田・牧野研究室が開発した、何も装着していない人体表面に触覚を提示することができる超音波ハプティクス技術^{※2}を使用し「モナリザ」と握手ができる展示や、本企画のためにオリジナルで開発した音声触覚変換デバイスを「関ヶ原合戦図屏風」の絵に近づけることで、武士の声や鉄砲の音、作戦の内容などを感じられる展示をはじめとした、世界の有名絵画5作品の展示を予定しています。

<アート作品体験イメージ>



厚生労働省の調査によると、日本では視覚障害の身体障害者手帳所持者数は約 27.3 万人に上ります^{※3}。このような状況を受け、視覚だけでなく、身体全体でアートを楽しむ新しい方法を提案するため、「ENTOUCHABLE MUSEUM -超さわれる美術館-」を企画しました。「アートは視覚を用いて一人で“観賞”するもの」という常識を、「アートは全身で“体感”し、他者との“感性共有機会”にもなるもの」に変えることで、視覚障害者と一緒にアートを楽しめる世界の実現に向けて取り組んでいます。

全作品において、触覚と聴覚による体験拡張により、体験者同士の対話を促し、視覚による鑑賞体験だけでは気がつかないような作品要素の発見にもつなげます。視覚障害者だけでなく、誰もがよりアートの世界観に接触・没入・感動できることを目指します。

なお、電通デジタルは、デジタルテクノロジーとクリエイティブを活用し、さまざまな社会課題の解決に取り組む「ソーシャルプロジェクト^{※4}」を実施しており、本件もその活動の一つです。

今後も電通デジタルは、AI などデジタルテクノロジーを用いたクリエイティブの創造と新しいサービスの開発・提供を通し、さまざまな課題解決に貢献してまいります。

<「ENTOUCHABLE MUSEUM -超さわれる美術館-」概要>

名称：ENTOUCHABLE MUSEUM -超さわれる美術館-

場所：東京ミッドタウン日比谷 6 階「BASE Q HALL 1」（東京都千代田区有楽町 1-1-2）

日時：2024 年 12 月 20 日（金）午後 3 時～午後 7 時

2024 年 12 月 21 日（土）午前 12 時～午後 7 時

2024 年 12 月 22 日（日）午前 12 時～午後 5 時

※日によって開催時間が異なります。ご注意ください。

主催：NPO 法人八王子視覚障害者福祉協会／電通デジタル

特別協力：三井不動産株式会社

パートナー：東京大学大学院新領域創成科学研究科篠田・牧野研究室 / ソーダコミュニケーションズ / 東北新社

展示作品：

- ① 超音波ハプティクス技術を用いて、握手ができる「モナリザ」
- ② 音声触覚変換デバイスを用いて、風と雷を感じられる「風神雷神図屏風」

- ③ 音声触覚変換デバイスを用いて、戦いの音や登場人物の声などを感じられる「関ヶ原合戦図屏風」
- ④ 音声触覚変換デバイスにより、水が流れる様子や草木の揺れを表現する「下野黒髪山きりふりの滝」
- ⑤ 音声触覚変換デバイスを当てると、絵画上の出来事を感じられる「グランド・ジャット島の日曜日の午後」

※展示作品は変更になる可能性があります。

特設サイト URL : <https://entouchable-museum-event.peatix.com/view>

※事前予約は本 URL よりお申し込みください。

※イベント参加は2人1組の参加が必須。各回先着で事前登録が必要です。

※視覚に障害がない方でも参加可能です。

※1：ハプティクス（触覚伝達）技術とは、力や振動、動きを与えることで、ユーザーに「実際にモノに触れているような感触」をフィードバックする技術のこと

※2：超音波ハプティクス技術 について

上記東京大学の研究は、「非接触ハプティクスの公共空間実装」内閣府総合科学技術・イノベーション会議の「SIP/バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備」（研究推進法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）によって支援されています。

※3：厚生労働省「令和4年生活のしづらさなどに関する調査」より

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40511.html（2024年5月31日発表）

※4：ソーシャルプロジェクトについて

電通デジタルは、デジタルテクノロジーとクリエイティブを活用し、さまざまな社会課題の解決を目指す「ソーシャルプロジェクト」を継続的に行っています。2019年に、プラスチックごみによる海洋汚染の深刻さを発信するため、AIを用いて、実際のプラスチックごみの画像を、世界中の「海」が描かれた名画の画家のタッチに変換し名画に描き、未来の海を絵画で表現するプロジェクト「名画になった"海展」や、2020年には、AIを用いて指名手配被疑者の現在の姿を予測するプロジェクト「TEHAI」、2022年はパラ競技団体の運営や選手の練習の支援金に対する課題に対し、クラウドファンディングでの資金調達と支援者拡大を目的とした「ロゴで応援！ People-Sponsored Logo」などを企画・実施しました。

<https://www.dentsudigital.co.jp/about/sustainability/social-projects>

以上

<電通デジタルについて> <https://www.dentsudigital.co.jp/>

電通デジタルは、国内最大規模の総合デジタルファームです。「人の心を動かし、価値を創造し、世界のあり方を変える。」をパーパスに、生活者に寄り添うクリエイティビティとテクノロジーを統合的に活用することで、あらゆるトランスフォーメーションを実現しています。クライアント企業の事業成長パートナーとして、共に新たな価値を創造することで、経済そして社会の「変革と成長」を目指しています。

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通デジタル ブランディング&コミュニケーション部 社外コミュニケーショングループ
北川・宮本 Email : press@dentsudigital.co.jp

【本事業に関する問い合わせ先】

株式会社電通デジタル 「ENTOUCHABLE MUSEUM -超さわれる美術館-」事務局

Email : Entouchable_museum_dd@group.dentsu.co.jp